

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第110号 平成27年1月5日発行



発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

全国労災病院外科共同研究について

外科部長 小川 敦司



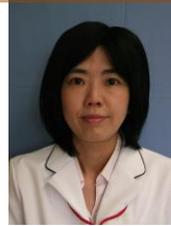
北海道から九州まで全国にある労災病院32施設の外科で毎年共同研究を行っています。患者様の早期社会復帰を目標に腹腔鏡手術であったり、抗癌剤治療であったり様々な外科領域疾患についてテーマを決めて検討を行っています。平成26年度は当施設が主幹となりイレウスについて早期社会復帰を目指したデータ集積、検討を行っています。

イレウスは古くから検討されている疾患で過去数回に渡り全国集計が行われてきました。1970年代の集計では癒着性 33.9%腫瘍性 8.2%絞扼性 8.6%に対して、1990年代の集計では癒着性 65.2%腫瘍性 9.1%絞扼性 6.2%と割合が大きく変化しました。癒着性イレウス頻度の増加は保存的治療が増加（癒着性イレウスの手術頻度はそれぞれ 52.5%と 16.9%）したためです。これはイレウス管による保存的治療症例数が増加したとともに、その結果反復して再発する症例も増加したからです。診断においては Multidetector-row computed tomography : MDCT の普及により容易に任意のスライス像を再構築可能となりました、またエコー性能の向上もすばらしく壁構造や血流の評価がより詳細に出来るようになりました。これらの進歩は保存的治療か手術的治療かの判断のみならず保存的治療法の選択や手術治療の術式選択にも役立っています。

今後について長期的には様々な腹腔鏡手術が行われるようになり、また手術時に癒着防止シートの使用が行われるようになってきたため癒着性イレウスの減少が期待されています、しかし今までの手術症例や創部を小さくしても依然発症する癒着性イレウス症例に対して保存的治療の適応や治療継続の限界について検討する事により早期社会復帰を目指したいと考えております。

心臓CT(冠動脈CT)検査が可能になりました

循環器科副部長 竹政 啓子



心臓の検査には心電図、心エコー、心筋シンチグラフィ、冠動脈造影などがありますが、近年の画像診断技術の進歩により、マルチスライスCTで冠動脈が評価できるようになりました。

平成26年10月に当院にも80列マルチスライスCT装置が導入され、心臓CT検査を行うことができるようになりました。そのため今回は心臓CT検査の概要についてご説明します。

○心臓CT検査でわかること

今までは心臓カテーテル検査でしか分からなかった冠動脈の走行、狭窄を評価することができます。心臓CTではカテーテルを使用せず、点滴で造影剤を注射することで冠動脈の評価が可能です。心臓カテーテル検査と比べより低侵襲で、体の負担が少ない検査です。また心臓CT検査は、心臓の弁、心筋、心膜のほか、必要に応じて大動脈、肺をみることもできるので、心筋疾患、心臓腫瘍、大動脈瘤、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの診断にも役立ちます。

○心臓CT検査の特徴

メリット

- ・ 短時間で検査が可能です。
- ・ 心臓カテーテル検査のように入院の必要はなく、外来で行えます。
- ・ 心臓カテーテル検査では評価できない冠動脈の壁性状が評価できます。

デメリット

- ・ 造影剤アレルギーがある方は検査ができません。
- ・ 腎機能が悪い方は検査が出来ない場合があります。
- ・ 冠動脈の石灰化が強い場合、診断の精度が悪くなります。
- ・ 心臓カテーテル検査と同様に、放射線被曝があります。
- ・ 息止めができない方、頻脈、不整脈(頻発する期外収縮、心房細動など)の方は画像解析が不可能な場合があります。



○心臓CT検査手順

準備	安静時の脈拍が65回/分を超える方は検査1時間前に来院してβブロッカーを内服していただいています(喘息治療中の方は使用できません)。
検査	検査は造影剤を経静脈的に注入して、10秒程度のCT撮影で終了となります。
撮影時間	約20~30分です。
読影結果	数日内に循環器科医師による読影結果をご報告させていただきます。 (週末検査施行の場合はもう少し長くかかります。)
諸費用	3割負担で1万円程度です。

現在は毎週水曜日のみ検査を行っておりますが、順次検査枠を増やす予定ですので、ご質問等ございましたら病診連携室までお問い合わせください。

医師異動のお知らせ

新任医師

整形外科部長	きまた のりふみ 木全 則文(平成8年愛知医科大学卒)
耳鼻咽喉科副部長	かとう たかしげ 加藤 貴重(平成16年愛知医科大学卒)
整形外科医師	あさの ゆうすけ 浅野 雄資(平成23年愛知医科大学卒)

退任した医師

耳鼻咽喉科副部長	片平 信行
耳鼻咽喉科医師	安井 愛純
整形外科医師	武田 朋代

(平成27年1月1日付)



新しい検査、その先に 最新式80列CTを導入しました

CTが誕生してから、半世紀。そんなCTもあらゆる臨床現場において欠かせないものになりました。半世紀もむかし頭部の断層撮影から始まったCT検査も、いまとなつては整形、消化器、呼吸器、救急そして心臓領域というあらゆる臨床現場で用いられるようになりました。

そんな医療現場でかせないCT検査。けれども、唯一「被ばく」という問題が残りました。レントゲンと同じように、CT検査はX線を使うためです。

旭労災病院が導入したこの新しいCTは、この問題解決へ挑戦しました。最新の被ばく低減技術を搭載することによって。

この被ばく低減技術により、これまでのCT検査と比べても、最大で1/4まで被ばく低減が可能です。

患者様の負担を低減し、臨床的価値のある検査を実現していく旭労災病院。患者様へやさしい検査。これからも地域と共に。